

三池でまたも大事故が



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番
③3034番
編集兼 山下 晴
発行人
半年間1,200円 送料共

秋季年末闘争妥結 炭 労

今後は石炭政策闘争へ

炭労は、石炭政策の根本にふれ、一期末手当、退職手当増額——その北炭合理化反対闘争とともに、ほかの要求を柱にすすめてきた秋

季・年末闘争を妥結した。そのため、目下深夜、二日から計画していたストライキを中止した。従って今後はもっぱら石炭政策の確立に向け、闘いを集中していく。詳細は次号参照のこと。

自然発火で五人入院

原因は異常な作業督励

三池大災害、それから坑内火災と大災害ばかりをくり返してきた三井三池は、またも世の人の心を揺るがす出来ごとをひき起こした。事実がまざまざとひびきわたっているように、こんどもまたまざまとなく会社の保安監視によるもので、働く者の命にこそ別状がなかったものの、四山鉱の坑底で起きた自然発火がそれである。五人の入院患者まで出たが、全山から会社への抗議の声がまき起っている。

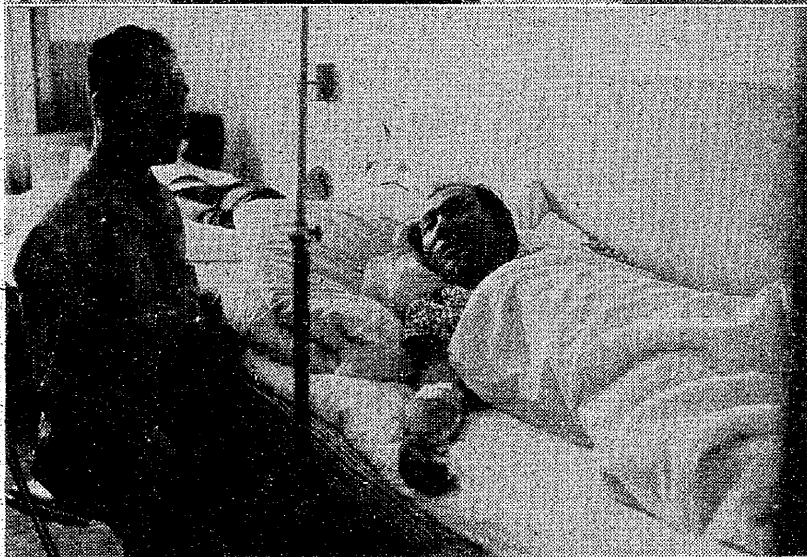
自然発火は、十月二十四日午後一時二十分ごろ起きた。場所は四山鉱(木村治敏)の坑底——上層西六十添部西四片入口付近(坑口から約七・六キロほどはいたところ)。発火と同時に発生したもので、い煙が排気流に乗って、四山鉱の同坑道につながっている三川鉱の坑底——六十御坑道に流れこみ、ところによっては境界ゼロにまで達した。

三川鉱の同坑道で働いていた作業員七十一人は緊急退避。昇坑後、ただちに検診。藤田幸次郎さんほか四人の労働者は医師の診断にもとずき入院。精密検査を受けることとなった。

口先だけの「保安」

入院の藤田さん語る

入院した人びとは、次の通りで、曜病院関係ある。(いずれも三川鉱勤務) 松尾 進さん、甲方仕繰工



写真上は、点滴を受けながら安静に治療している松尾進さん。下は、心配して見舞いにかけてきた同じ9.28CO患者仲間、意外に明るい表情でこたえる藤田幸次郎さん。(いずれも曜病院で)

現場でやるハッパの煙ぐらいい思、気にもとめませんでした。ところがいつの間にか煙が白く、煙が、消えるどころか白さを増し、やがて真っ黒い煙に変わってきい。詳細は次号参照のこと。

連綿にかけずりまわっていた新労組員のひとと出会いましたが、あの人のことが心配です。とにかく、からくも命拾いしました。私は九・二八坑内火災で被災(四十二年九月二十八日、三川鉱で発生。組合はすでに、会社の災害責任を追究する裁判を起している。七人の死者まで出した災害)したCO患者です。それも四十九年の三月労災補償を打ち切られたばかりで、まさにダブルパンチ。会社が口でくり返す保安対策がいかにまかしのものか、これでハッキリしたわけ。現に会社は、上期の出展計画の遅れを

とりもたずために、新労組幹部とぐるになって、私たち炭鉱労働者がせつなく権利として勝ち取った特定休日(十一月十五日)をきえ取りあげることきめたといいますが、このような会社の、出展監視に見せる異常さのなかにこそ、つづき事故や災害の根本原因が横たわっているのです。しかもことは、あれほど高温問題がやましく取り沙汰されている四山鉱の坑底で発生した事実、に、会社としても返す言葉はないはず。



(老令) 年金は、加入期間が一年以上三ヶ月あれば、五十五歳から受給することが出来ます。さらに右のような加入期間の上積み(の)場合は、通算老令年金として、厚生年金(その他公的年金も含む)と国民年金の加入期間が二十五年以上が必要であり、年金額はそれぞれの方法で計算した額が受給出来ます。

厚生年金の受給資格は

▼女子と坑内員は、三十五歳以後の加入が十五年あれば、五十五歳から受給出来ます。任意継続——被保険者として保険料を全額自己負担して、受給資格を得ることが出来ます。(入替採用による婦

三池大災害13周年抗議集会
命を守る反合闘争へ
災害続発の中に結集

三池大災害13周年抗議集会は、当日の十一月九日午後一時から、全国集會参加者はじめ、革新政党ら、組合員・家族を結集するほか、そのほかの民主的諸団体代表らも打ちつづき事故や災害のなかで

「命を守る反合理化闘争」への固い誓いとなるに違いない。集会のおおよその順序は、次の通りである。
①労働歌、炭掘る仲間、の合唱。
②開会のことば。
③主催者代表あいさつ。
④来賓代表あいさつ(総評ほか諸団体代表)。
⑤来賓紹介。
⑥激電披露。
⑦経過報告。
⑧原告団決意表明。
⑨黙とう。
⑩閉会のことば。
⑪労働歌合唱。
⑫「がんばろう」三唱。後、デモへ。